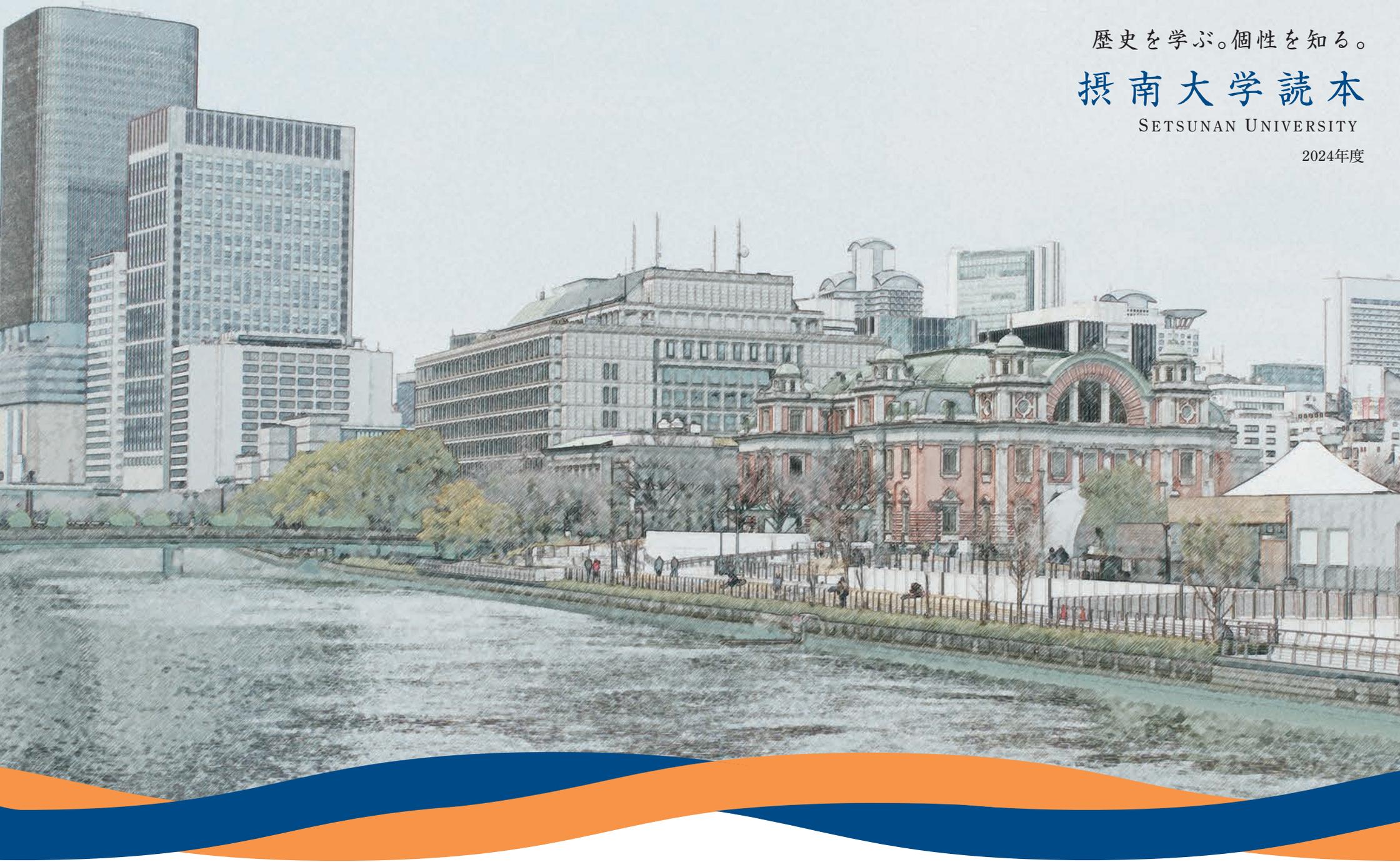


歴史を学ぶ。個性を知る。
摂南大学読本

SETSUNAN UNIVERSITY

2024年度



表紙絵(大阪中之島の風景): 大阪市の中心を流れる堂島川と土佐堀川に挟まれた中之島には、大正期から大阪市中央公会堂をはじめ図書館・美術館などの文化施設、大阪市役所や日本銀行大阪支店など行政・金融の中心をなす施設が立ち並んでいる。本学園の起源となる関西工芸専門学校の前代校長・理事長の片岡安は、大阪市中央公会堂の実施設計、日本銀行大阪支店の建設に携わるなど、発展期の大阪において先駆的な役割を果たした人物である。

摂南大学読本
発行日: 2024(令和6)年4月1日
発行: 学校法人常翔学園
常翔歴史館
<https://www.josho.ac.jp/ayumi/>

 学校法人常翔学園



Contents

建学の精神	03
摂南大学を学ぶ	05
設置する学部・大学院とその展開	08
摂南大学の歴史	11
キャンパスマップ	19
大学歌	20
摂南大学を訪れた知識人たち	21
建学の精神と教育理念を読み解く	24
数字で見る摂南大学	31

学長からのメッセージ

挑戦を、たのしむ人へ!

摂南大学は2025年、開学50周年を迎えます。そして関西工学専修学校を淵源とする常翔学園は2022年に創立100周年を迎えました。この歴史と伝統ある大学で学ぶことは大きな誇りです。100年前といえば第一次世界大戦やスペイン風邪の流行など大変な時代でした。そのような中で、とくに就学する機会に恵まれなかった若者に技術者育成の専門教育の機会を提供するという高い志をもって、関西工学専修学校は開学しました。

そして、今世の中は、テクノロジーの発展による急激な変化や地域環境・社会問題等の複雑化などによって予測が難しい混沌の時代に入ってきました。

摂南大学は、社会の変化の兆しをつかみ、新たなことに「挑む」人材、その挑戦を「楽しむ」人材、そして自らを成長させて次代の社会を「変えていく」人材を育てています。

人との出会いを楽しむ人、多様な価値観を楽しむ人、そして学問を楽しむ人が集まり、自分自身も、周囲の人たちや環境も、そして世界をも変えていく、それが私たちのめざす姿です。

混沌の時代にあって、摂南大学が育む「挑戦を楽しむ」マインドをもった人材が、社会をよりよく変えていこう。

成長する人とは、自ら志を高く持ち、挑み、それを楽しむ人。

挑み続けることで、自分の世界が広がっていきます。

その軌跡が、自分と未来を輝かせるに違いありません。

皆で輝かしい歴史と伝統をつくってまいりましょう。

摂南大学 学長 久保康之

世のため、人のため、地域のため、
理論に裏付けられた実践的技術をもち、
現場で活躍できる
専門職業人を育成する。



本庄京三郎 (ほんじょう きょうざぶろう)

設立者・校主
1868年岡山県生まれ。1891年東京法学院(現 中央大学)卒業。日本有数の高級住宅地として知られる西宮市甲陽園の開発をはじめ多くの企業経営に携わるなど、新しい街づくりを進めた実業家でした。



片岡 安 (かたおか やすし)

初代校長・理事長
1876年石川県生まれ。1897年東京帝国大学工科大学(現 東京大学)卒業。大阪市中央公会堂をはじめ、数多くの建築設計に関わる。日本建築協会、大阪工業会理事長、京都帝国大学講師などを勤めた都市計画のバイオニアでした。



本学を設置する学校法人常翔学園の歴史は、1922(大正11)年、「関西工学専修学校」として幕を開けた。明治維新を契機にわが国は近代化・工業化に向けて大きく飛躍し、大阪も周辺地域を含め大都市へと変貌を遂げた。急速な都市化は繁栄をもたらす反面、都市基盤整備を支える技術者が不足し、これに対応できる技術者の育成が求められた。時代の要請、社会や地域の要請に応え、世の中に貢献できる人材を育成すること…。創設者たちの使命と情熱がひとつの学校の開校に向けて大きな原動力となった。一世紀前に掲げた建学の精神は、滔々と流れゆく大河のように時代とともに教える者、教わる者の思いとして受け継がれていく。

学園の沿革は「常翔学園ウェブサイト」からもご覧いただくことができます。

<https://www.josho.ac.jp>



**1922年、関西工学専修学校は
専門技術の修得を志す多くの者に門戸を開いた**

関西工学専修学校の開校を当時の新聞は次のように紹介した。「現代の要求する中堅的専門技術家を養成する目的を以て篤学の志を懐いて家庭の事情のため犠牲に余儀なくされている者のために関西工学専修学校を設立し…。同校の開校は、まさに「より高度な専門知識を学びたい」と願う人たちに分け隔てなく門戸を開くことが目的であり、官公庁や大学の第一線で活躍する専門家の協力により授業を行うという姿勢は、建学の精神そのものであったといえる。



常翔学園について

1922(大正11)年9月7日、時の大阪府知事 池松時和氏から設置認可を受け創設した関西工学専修学校がそもそもの始まりである。1926(大正15)年には、同校を設置運営する組織として「財団法人関西工学」を設立。その後、法令改正等による改組や名称変更を経て、2008(平成20)年に「学校法人常翔学園」と改称。「常翔」とは「常に天翔るもの」の意である。

現在では、大阪工業大学・大学院、摂南大学・大学院、広島国際大学・大学院、常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園中学校・高等学校の3大学、2高校、2中学校を設置する総合学園へと成長を遂げ、約2万6千人の学生・生徒が学んでおり、延べ約31万8千人の卒業生が社会の各分野で活躍している。

■学園章

1986(昭和61)年制定。自然界に多大の富を与え続ける太陽のフォルムをマークに生かすことにより、割智を与え続けるあたたかみのある学園を表現。またラインは河の水面、永遠に流れ続ける河をイメージし、停滞しない将来のより勝れた学問の進歩を表現している。



■学園カラー

2012(平成24)年、学校法人常翔学園を表す色彩(法人カラー)を青藍(せいらん)に制定。青藍は、鮮やかな藍(あい)色で、「青は藍より出でて藍よりも青し」の故事に基づき、学園全体の躍進と進化の象徴を表現している。



■学園の沿革

1922(大正11)年	関西工学専修学校を創設
1926(大正15)年	財団法人関西工学を設立
1933(昭和8)年	関西工業学校を開設 《後に現在の常翔学園高等学校に発展》
1940(昭和15)年	関西高等工業学校を開設 《後に現在の大阪工業大学に発展》
1947(昭和22)年	法人名を財団法人摂南大学と改称
1948(昭和23)年	摂南学園高等学校を開設
1949(昭和24)年	摂南工業大学を開設 法人名を財団法人大阪工業大学と改称 摂南工業大学を大阪工業大学と改称
1950(昭和25)年	摂南学園高等学校を大阪工業大学高等学校と改称
1951(昭和26)年	法人を学校法人大阪工業大学に改組
1975(昭和50)年	摂南大学を開設
1987(昭和62)年	法人名を学校法人大阪工大摂南大学と改称
1998(平成10)年	広島国際大学を開設
2007(平成19)年	学校法人啓光学園(啓光学園中学校[1957(昭和32)年開設]、啓光学園高等学校[1960(昭和35)年開設])と連携協定締結 同法人の名称を学校法人常翔啓光学園と改称 法人名を学校法人常翔学園と改称
2008(平成20)年	大阪工業大学高等学校を常翔学園高等学校と改称 啓光学園中学校・高等学校を 常翔啓光学園中学校・高等学校と改称
2011(平成23)年	常翔学園中学校を開設
2013(平成25)年	学校法人常翔啓光学園と法人合併

教育の理念

人間力と実践的能力をもち、
多様な人々と協働して
社会に貢献できる人材を育成する。

教育の方針

教育の質保証のために、①DPの達成のための教育体制、②DPの達成度を可視化できる教育体制、③学部・学科・コース・科目毎の教育成果の可視化に基づき、DPの達成を実現できる教育システムを構築する。

(1) 授業方法

- ①対面授業において、ICTツールを活用した事前学修教材(デジタル教材、配付資料など)の提供により履修学生の学修に対する主体的取り組み、動機づけを行って授業に臨み、事前・事後学習課題の設定とフィードバックにより、対話的な学びができる授業を実践し、学力の三要素*1の定着をはかる。
- ②履修学生の多様な学びに対応したオンデマンド授業の効果と評価を精査しながら、活用を図る。
- ③1年次から学内外でのプロジェクト型の実践的学修を取り入れ、大学での学びの動機づけを図る。
- ④学生を本学の教育における主体的な協働者として位置づけ、授業の意見・評価・要望を日常的に聴取・検討して、授業の改善に役立てる。

(2) 教育体制

- ①学生の主体的・自律的学修を促進するために、「学ぶ力」、「学修習慣」、「専門領域の学修に必要な確かな基礎学力」、「思考力、判断力、表現力、知的創造力などの基礎的能力」の向上を図る。初年次ゼミ(該当する科目含む)では、ファーストイヤー・スタディガイドを活用する。また、学びの動機づけのため入学生を対象に「学修キックオフセミナー」を実施する。
- ②数理・データサイエンス・AI教育(MDASHプログラム)、副専攻課程および全学的教養科目(大学教養入門など)の教育を推進する。
- ③効果的な学修を推進させるため、学生に応じて年間に履修できる単位数を決定する(キャップ制*2の柔軟な対応)
- ④FD・SD活動を推進し、組織的に教育改善に取り組む。
- ⑤国際性を高めるため、グローバル教育センターを中心に全学的な海外研修、海外プロジェクト学修、交換留学生を含む留学生との交流等のグローバル教育の創出と充実を図る。
- ⑥社会ニーズに基づいたリカレント教育を実施する。

*1 学力の三要素:①基礎的な知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度
*2 キャップ制:単位の実質化を目的として、1年間あるいは1学期間に履修登録できる単位の上限を設け、単位の過剰登録を防ぐ制度

教育と経営



理事長 西村 泰志【2020.7.20~】

理事長 経歴

1973年大阪工業大学建築学科卒。
鹿島建設勤務を経て1976年同大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了。同年大阪工業大学助手に。講師、助教授を経て1999年教授。八幡工学実験場長、学生部長、工学部長兼工学研究科長を歴任。2014年同学科特任教授。2015年11月から2019年10月まで学長を務める。2020年客員教授。同年理事、7月から12代理事長に就任。
2018年に鉄筋コンクリート柱と鉄骨梁で構成されるハイブリッド構造の接合部の力の流れを理論化したことで日本建築学会賞(論文)受賞。
博士(工学)京都大学。愛媛県出身。



学長 久保 康之【2023.11.1~】

学長 経歴

1980年京都大学農学部農林生物学科卒。
1985年同大学院農学研究科農林生物学専攻博士課程修了。1987年に京都大学農学部助手・講師に。京都府立大学で助教授を経て2001年に農学部教授。その後、教務部長、生命環境学部教授、生命環境科学研究科長を務める。2017年摂南大学客員教授を経て2020年農学部長着任。2023年11月に12代学長に就任した。
雲南農業大学(中国)名誉教授、京都府立大学名誉教授。日本植物病理学会会長などを歴任。
博士(農学)京都大学。大阪府出身。

氏名	在任期間
歴代学長	
初代学長 宮北 敏夫	【1975.4.1~1977.7.31】
2代学長 山口 次郎	【1977.8.1~1985.9.30】
3代学長 奥島 啓式	【1985.10.1~1988.3.31】
4代学長 牧本 利夫	【1988.4.1~1991.9.30】
5代学長 櫻井 良文	【1991.10.1~1993.10.27】
6代学長 佐谷戸 安好	【1993.10.28~1997.10.27】
7代学長 栗山 仙之助	【1997.10.28~2005.10.27】
8代学長 森本 益之	【2005.10.28~2007.10.27】
9代学長 今井 光規	【2007.10.28~2015.10.31】
10代学長 八木 紀一郎	【2015.11.1~2019.10.31】
11代学長 荻田 喜代一	【2019.11.1~2023.10.31】



シンボルマーク、タグライン、校章、ユニバーシティカラー

シンボルマーク

“S”と“U”を組み合わせ「人」の文字を表わしたシンボルマーク。



SETSUNAN UNIVERSITYの頭文字である“S”と“U”を組み合わせ、漢字の「人」をフォルムに、「人」が元気に歩く姿をシンボライズしている。学生一人ひとりの個性を大切に教育方針や、未来へ向かって果敢に歩んでいく、チャレンジ精神旺盛な校風を象徴している。また、融通性・柔軟性に富むフォルムによって、型にはまらない、自由で伸びやかな雰囲気を与えている。

タグライン

Smart and Human

「賢明な」の意味を持つSmart。本学の全学部・部署が緊密に連携して強力な“知のネットワーク”を構成し、人類がいかに持続可能性を確保するかという地球規模の課題の解決に取り組む姿勢を表わしている。また、「人間的な」の意味を持つHumanには、コミュニケーション、法令遵守、奉仕精神など“人と人との絆”を何よりも大切にするという思いが込められている。

「Smart and Human」のタグラインを通して、摂南大学が高度な機能と豊かな人間性を備えた総合大学であることを伝える。

校章



摂南大学の校章。大学名の略称である「摂大」の文字を図案化したもので、開学当初から続く本学の証であり、大学旗にも印されている。

ユニバーシティカラー

SETSUDAIオレンジ



印刷物(特色指定)
/DIC204 100%
印刷物(掛け合わせ指定)
/M50%+Y80%
RGB値
/R:243 G:153 B:57
※上記数値は参考値です。

摂南大学のユニバーシティカラー「SETSUDAIオレンジ」は、本学をイメージするシンボルカラーとしてこれまでさまざまなアイテムやツール、媒体などで使用してきた馴染みのある色でもある。2012(平24)年に詳細な色指定をもって摂南大学を象徴する色として、正式にユニバーシティカラーとして定めた。

「SETSUDAIオレンジ」は、「積極性」「若々しさ」「エネルギー」を表わすと同時に、「人間味あふれる教育姿勢」「温もりのある教育環境」も表現している。

設置する学部・大学院とその展開

工科系単科大学としてスタートした摂南大学には開学当初から総合大学として発展していく明確な展望と教育ビジョンがあった。

摂南大学は、4年制大学への志向が高まる中、社会ニーズに対応するため、1974(昭49)年6月28日に文部大臣(当時)へ設置認可を申請。翌年1月10日に認可を受け、1975(昭50)年4月1日に学園内の2番目の大学として開学した。

「摂南」という名称は、学園が「摂津国」の南に所在するところから用いた名称で、1947(昭22)年から2年間、「摂南学園」と名乗り、また旧教育制度による摂南高等工業学校、摂南工業専門学校、摂南工業学校あるいは摂南重機工業学校などにもそれぞれに「摂南」を冠につけた学校を設置してきた由緒ある名称である。

設置認可申請時から複数学部を持つ総合大学を視野に入れて開学した摂南大学。当初は工学部の1学部からスタートした。その後、「バランスのとれた大学、より高度な水準へと教育・研究環境の充実に向かって最善の努力をする」という決意のもと、学部の増設や大学院の開設に着手していった。現在は、9学部17学科、大学院7研究科11専攻を擁し、さらに進化を続けている。

1975年(昭和50年)

開学・工学部 [現 理工学部 2010(平成22)年~]

総合大学を目指して開学した摂南大学。その歩みは工学部とともに始まった。

大学開学時に設置した学部である工学部。土木工学科、建築学科、電気工学科、機械工学科、経営工学科の5学科からスタートした。2010年に生命科学科の設置に伴い理工学部(に名称変更し、6学科編成に改組した。



1982年(昭和57年)

国際言語文化学部

[2005(平成17)年~外国語学部を経て 2022(令和4)年~国際学部]

グローバル化する社会情勢を見据え、国際人の育成を目指して開設。

「国際交流の場で活躍できる人材の育成」を目的に開設した。世界の主要な言語および文化について総合的な知識を身に付け、歴史、経済、政治などについて、比較文化的視野と国際的視野から教育・研究を展開してきた。



経営情報学部

[現 経営学部 2010(平成22)年~]

時代を先取りした新学部の誕生は当時、関西唯一の存在として注目された。

開設当時は関西で唯一本学が設置した学部としてスタート。伝統的な商習慣から脱して経営の近代化やコンピュータ化、国際化などにも対応できる新しい経営パーソンとして社会に貢献できる人材を輩出してきた。



1983年(昭和58年) 薬学部

社会貢献という教育理念に基づいた教育で
全国トップの実績を誇る学部へと羽ばたいた。

特に衛生薬学を志向する学部を目指して開設。衛生薬学科と薬学科の2学科からなる。1987年、第1期卒業生130人が薬剤師国家試験に全員合格という快挙を達成。開設以降、合格率1位を13回獲得し、全卒業生のうち98.4%が薬剤師資格を有している。2006年に6年制に移行し、1学科編成(薬学科)に改組。



1988年(昭和63年) 法学部

多様化する社会生活を支える
法学知識人の育成を目指して誕生した。

社会生活の多様化、情報化、国際化が急速に進む中、法的諸問題の発生件数も増加。必然的に法学の専門知識を必要とする職業分野が著しく拡大したことを受け、専門知識を活用できる実務型の人材育成を目指し開設した。



2010年(平成22年) 経済学部

国際経済、地域経済、観光経済に焦点を当て、
現場で活躍できる専門職業人を育成する。

現代の経済社会における諸問題に積極的に取り組むことができる知的・専門的経済人を養成することを目的に開設した。ニーズが増大している「国際経済」「地域経済」「観光経済」に焦点を当て、発展した経済理論を基礎として幅広い見識と豊かな人間性を持った人材を育成している。



2012年(平成24年) 看護学部

これからの医療を支える、
より高度な看護職者の育成を目指して開設した。

最新の医療現場に対応できる高い専門性と、総合大学の利点を生かした豊かな教養を身につけた看護職者の育成を目指している。開設以来の堅実な取り組みが実を結び、第7期までの受験者全員が看護師国家試験に合格するなど実績を上げている。



2020年(令和2年) 農学部

グローバルな視点で「食」と「農」に関する知識・技術を持ち、社会課題の発見と
その解決に取り組める人材を養成する。

食と農に関わる一連のプロセスを体系的に学び、広い視野と実践的な知識・技能を身につける教育・研究を行う。農業生産学科、応用生物科学科、食品栄養学科、食農ビジネス学科の4学科を置く。各学科の専門領域を深く学ぶとともに、全学科において、「農業生産」「環境・生態系」「バイオ技術」「産業創生」「食の安全・安心」「医療・健康」「国際協力支援」「豊かな持続可能社会」などの幅広い農学の知識・技能を身につける。



2023年(令和5年) 現代社会学部

社会学を基礎とした幅広い見識を有し、社会学的想像力と実践力を身につけた、
現代社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知的専門職業人を養成する。

複雑化する現代社会において、人間らしい生き方を基礎とした未来社会を創造する人材を育成することを目的として開設。
社会学を専門的基礎として、現代社会の多様な諸課題を多角的・総合的視点から深く理解し、その解決に主体的・実践的に取り組む人材を育成する。

大学院

より高度な専門性と幅広い教養を
備えた人材の養成を目指して



薬学研究科 [1988(昭和63)年]

薬学部を基礎として薬学研究科薬学専攻修士課程を開設。1990年に同博士課程を開設。2012年に6年制薬学部の改編に対応した薬学研究科医療薬学専攻博士課程(4年制)に改組。

理工学研究科 [1989(平成)年]

工学部(当時)を基礎として工学研究科を開設。社会開発工学専攻、機械・システム工学専攻に修士課程を設けた。1990年に電気電子工学専攻修士課程、2008年に創生工学専攻博士課程を増設。2014年に生命科学科の完成年度を機に理工学研究科に改組。社会開発工学専攻[博士前期課程]、生産開発工学専攻[博士前期課程]、生命科学専攻[修士課程。後に博士前期課程]、創生工学専攻[博士後期課程]となった。2016年に生命科学専攻[博士後期課程]を増設。

経済経営学研究科 [1995(平成7)年]

経営情報学部(当時。現、経営学部)を基礎として経営情報学研究科経営情報学専攻修士課程を開設。2014年に経済学部の完成年度を機に経済経営学研究科に改組。経済学専攻と経営学専攻に修士課程を設置。

法学研究科 [1997(平成9)年]

法学部を基礎として法学研究科法律学専攻修士課程を開設。

国際言語文化研究科 [1999(平成11)年]

国際言語文化学部(当時。現、国際学部)を基礎として国際言語文化研究科国際言語文化専攻修士課程を開設。

看護学研究科 [2016(平成28)年]

看護学部を基礎として看護学研究科看護学専攻修士課程を開設。

農学研究科 [2024(令和6)年]

農学部を基礎として農学研究科農学専攻博士前期・後期課程を開設。

大学の開学と発展(1975~1987年)

工学部からスタートし、国際言語文化学部、経営情報学部、そして薬学部を開設。開学時からの構想を実現するべく、総合大学としての一步を歩みはじめた。

1975年(昭和50年)

摂南大学開学

- 4月 ●工学部(土木工学科、建築学科、電気工学科、機械工学科、経営工学科)を設置
5号館(寝屋川キャンパス)が竣工(3月)
- 初代学長に宮北敏夫が就任
- 6月 ●摂大後援会発足
- 9月 ●摂大通信「摂大キャンパス」発刊
- 11月 ●摂大後援会主催の懇談会(教育懇談会)始まる

1977年(昭和52年)

- 8月 ●2代学長に山口次郎が就任

1978年(昭和53年)

- 6月 ●3号館(寝屋川キャンパス)改装工事が竣工。同館に図書館を移転

1979年(昭和54年)

第一期卒業生巣立つ

- 3月 ●第1回学位記授与式を挙行(410人が巣立つ)

1981年(昭和56年)

- 12月 ●8号館(寝屋川キャンパス)が竣工

摂南大学の名称由来

「摂南」は、学園の旧名称であり、1940年代に学園が設立した学校に付して社会的に認知されていた名前でもある。学園にとって、この歴史と由緒ある名前を大学名に託すことで大学の発展を願った。

▼大阪工業高等専門学校(1962年開設)の校地・校舎を引き継いだ開学当時の寝屋川キャンパス



この地に開学した摂南大学。摂大生は、閉校となる大阪工業高等専門学校の学生と高専最後の4年間、学園祭を合同で行った。



◀正門
(当時の表札は摂南大学と大阪工業高等専門学校とを併記)

中庭での風景▶
(左側建物は寝屋川キャンパス3号館)



建設中の寝屋川▶
キャンパス7号館



▼開学の年から始まった大学祭「摂大祭」(1984年)



▼1983年当時の枚方キャンパス



▼1984年当時の寝屋川キャンパス



社会の動き

- 1975 ●ベトナム戦争終結
- 1977 ●宇宙開発事業団が初の静止気象衛星「ひまわり」を米ケープカナベラルから打ち上げ
- 1978 ●日中平和友好条約調印
- 1979 ●国公立大学の共通第一次学力試験が初実施
- 1980 ●イラン・イラク戦争始まる
- 1982 ●東北新幹線(大宮~盛岡)暫定開業
- 1983 ●東京ディズニーランド開園
- 1985 ●科学万博「つくば'85」開会
●阪神タイガース初の日本一
- 1986 ●ソ連、チェルノブイリ原発事故

1982年(昭和57年)

- 2月 ●7号館(寝屋川キャンパス)が竣工。同館に図書館を移転
- 4月 ●国際言語文化学部(国際言語文化学科)と経営情報学部(経営情報学科)を増設(寝屋川キャンパス)

1983年(昭和58年)

- 2月 ●枚方キャンパスを開設。1号館と2号館が竣工
- 4月 ●薬学部(衛生薬学科、薬学科)を増設(枚方キャンパス)

1984年(昭和59年)

- 2月 ●総合体育館(寝屋川キャンパス)が竣工
- 6月 ●国際言語文化学部海外研修始まる(アメリカなど4カ国)

1985年(昭和60年)

- 4月 ●大学創立10周年
- 10月 ●3代学長に奥島啓氏が就任

1986年(昭和61年)

- 4月 ●薬物安全科学研究所(枚方キャンパス)を開設

1987年(昭和62年)

- 2月 ●3号館(枚方キャンパス)が竣工。同館に薬物安全科学研究所を移転
- 4月 ●薬学部第1期卒業生が薬剤師国家試験に全員合格の快挙

大学院の開設と教育体制の拡充(1988~2000年)

大学教育に対する社会ニーズの多様化と高度専門化に対応するため、条件の整った学部から順次、大学院を開設した。

1988年(昭和63年)

- 2月 ●11号館(寝屋川キャンパス)が竣工
- 4月 ●法学部(法律学科)を増設(寝屋川キャンパス)
- 大学院を開設
- 大学院薬学研究科(薬学専攻)修士課程を設置(枚方キャンパス)
- 4代学長に牧本利夫が就任

1989年(平成元年)

- 4月 ●大学院工学研究科(社会開発工学専攻・機械・システム工学専攻)修士課程を増設(寝屋川キャンパス)

1990年(平成2年)

- 4月 ●大学院工学研究科(電気電子工学専攻)修士課程(寝屋川キャンパス)、薬学研究科(薬学専攻)博士課程(枚方キャンパス)を増設

1991年(平成3年)

- 10月 ●5代学長に櫻井良文が就任

1992年(平成4年)

- 3月 ●現在の正門(寝屋川キャンパス)が竣工

▼1991年の「摂大祭」

テーマ「想像的創造～俺たちのRevolution それが摂大祭～」



社会の動き

- 1988 ●青函トンネルが開通し、JR北海道津軽海峡線開業
- 瀬戸大橋が開通し、JR四国本四備讃線開業
- 1989 ●「平成」へ改元
- 天安門事件発生
- ベルリンの壁崩壊
- 1990 ●第1回大学入試センター試験が実施
- 1991 ●湾岸戦争勃発
- ソビエト連邦崩壊
- 1992 ●東海道新幹線で「のぞみ」が運転開始
- PKO法案成立 カンボジアに自衛隊を派遣
- 1994 ●日本人女性初の宇宙飛行士・向井千秋さんがスペースシャトルで宇宙へ
- 関西国際空港が開港
- 1995 ●阪神・淡路大震災
- 1998 ●長野冬季オリンピック開催。日本は史上最多のメダル獲得



▲1993年当時の寝屋川キャンパス



▲1996年当時の枚方キャンパス

▼新生歓迎の恒例行事「春風祭」(1999年)



1993年(平成5年)

- 3月 ●12号館(寝屋川キャンパス)が竣工
- 4月 ●経営情報学部(経営環境情報学科)を増設(寝屋川キャンパス)
- 10月 ●6代学長に佐谷戸安好が就任

1994年(平成6年)

- 3月 ●4号館(枚方キャンパス)が竣工

1995年(平成7年)

- 1月 ●13号館(寝屋川キャンパス)が竣工
- 4月 ●大学院経営情報学研究科(経営情報学専攻)修士課程を増設(寝屋川キャンパス)
- 大学創立20周年

1997年(平成9年)

- 3月 ●薬学部卒業生の薬剤師国家試験合格率が10度目の全国トップに
- 4月 ●大学院法学研究科(法律学専攻)修士課程を増設(寝屋川キャンパス)
- 10月 ●7代学長に栗山仙之助が就任

1999年(平成11年)

- 4月 ●大学院国際言語文化研究科(国際言語文化専攻)修士課程を増設(寝屋川キャンパス)
- 他大学に先駆けてインターンシップ制度を正課授業に導入

2000年(平成12年)

- 1月 ●2号館(枚方キャンパス)増築工事が竣工

さらなる教育体制の充実を目指して(2001~2010)

総合大学としての利点を活かした魅力的な教育を実践するべく、新たな学部を増設するなど、次代に呼応した進化を続けた。

2001年(平成13年)

- 1月 ●5号館(枚方キャンパス)が竣工
- 3月 ●国際会館(寝屋川キャンパス)が竣工

2002年(平成14年)

- 4月 ●工学部土木工学科を都市環境システム工学科に、電気工学科を電気電子工学科に、経営工学科をマネジメントシステム工学科に名称変更
- 7月 ●第1回FDフォーラム開催

2003年(平成15年)

- 4月 ●エクステンション講座始まる

2005年(平成17年)

- 4月 ●国際言語文化学部(国際言語文化学科)を外国語学部(外国語学科)に名称変更
- 大学院経営情報学研究所(経営情報学専攻)博士課程を増設(寝屋川キャンパス)
- 大学創立30周年
- 9月 ●人工芝グラウンド(寝屋川キャンパス)が竣工
- 10月 ●8代学長に森本益之が就任
- 12月 ●シンボルマーク(P.7)を制定

社会の動き

- 2001 ●アメリカ同時多発テロが発生
- 2002 ●欧州単一通貨「ユーロ」が流通開始
- FIFA日韓ワールドカップ開催
- 2005 ●京都議定書発行
- 愛知万博開催
- JR福知山線脱線事故
- 2006 ●北朝鮮が初の地下核実験
- バリアフリー新法施行
- 2007 ●米サブプライムローン問題で世界の経済・金融に大打撃
- 日本郵政株式会社発足
- 2008 ●米証券リーマン・ブラザーズが破綻し、世界同時不況に
- 2009 ●新型インフルエンザが大流行しWHOがパンデミックを宣言
- 裁判員制度スタート
- 2010 ●日本年金機構発足
- 探査機「はやぶさ」が小惑星「イトカワ」から7年ぶりに帰還



▲理工学部・経済学部開設記念シンポジウムでノーベル化学賞受賞者の下村脩博士が講演(2009年)



▲寝屋川キャンパス人工芝グラウンドが竣工(2005年)



▲寝屋川キャンパス10号館が竣工(2006年)



▲2006年当時の枚方キャンパス



▲枚方キャンパス3号館が竣工(2009年)

2006年(平成18年)

- 1月 ●10号館(寝屋川キャンパス)が竣工。同館に図書館、情報メディアセンターを移転
- 4月 ●経営情報学部を経営学部を増設(寝屋川キャンパス)
- 薬学部を6年制に移行
- 地域連携センター(現 研究支援・社会連携センター)を開設

2007年(平成19年)

- 10月 ●9代学長に今井光規が就任

2008年(平成20年)

- 2月 ●6号館(枚方キャンパス)が竣工。同館に臨床薬学教育研究センターを開設
- 4月 ●大学院工学研究科(創生工学専攻)博士後期課程を増設(寝屋川キャンパス)

2009年(平成21年)

- 7月 ●3号館(枚方キャンパス)建替工事が竣工

2010年(平成22年)

- 4月 ●**経済学部(経済学科)を増設**(寝屋川キャンパス)
- 経営情報学部を経営学部に変更
- 工学部を理工学部に変更。生命科学科、住環境デザイン学科、都市環境工学科を増設(寝屋川キャンパス)

学部分野の多様性と相互連携の推進(2011～現在)

社会のニーズに沿った新たな分野への学部・学科の増設・改編を展開。
学部間連携を強化することで、多様な教育を推進していく。

2011年 (平成23年)

- 2月 ●1号館(寝屋川キャンパス)建替工事が竣工
- 9月 ●第1回ホームカミングディを京セラドーム大阪で開催
- 12月 ●**タグライン「Smart and Human」(P.7)を制定**

2012年 (平成24年)

- 2月 ●7号館(枚方キャンパス)が竣工
- 4月 ●**看護学部(看護学科)を増設**(枚方キャンパス)
- 大学院薬学研究科を4年制に移行

2014年 (平成26年)

- 4月 ●大学院工学研究科を理工学研究科に名称変更。**理工学研究科(生命科学専攻修士課程、生産開発工学専攻博士前期課程)、経済経営学研究科(経済学専攻、経営学専攻)修士課程を増設**(寝屋川キャンパス)
- 5月 ●国連アカデミック・インパクトに参加

2015年 (平成27年)

- 4月 ●大学創立40周年
- 11月 ●10代学長に八木紀一郎が就任

2016年 (平成28年)

- 3月 ●**看護学部第1期卒業生が看護師国家試験に全員合格**
- 4月 ●**大学院理工学研究科(生命科学専攻)博士後期課程(寝屋川キャンパス)、看護学研究科(看護学専攻)修士課程(枚方キャンパス)を増設**
- ソーシャル・イノベーション副専攻課程始まる

2018年 (平成30年)

- 4月 ●教育イノベーションセンターを開設

2019年 (令和元年)

- 11月 ●11代学長に荻田喜代一が就任

2020年 (令和2年)

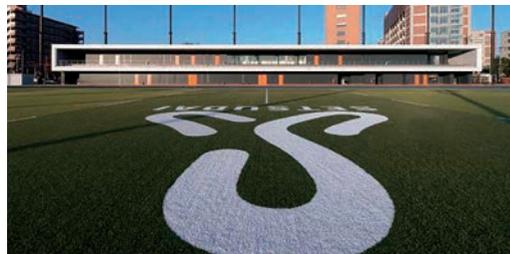
- 1月 ●8号館(枚方キャンパス)が竣工
- 3月 ●東グラウンド(寝屋川キャンパス)が竣工
- 4月 ●**農学部(農学生産学科、応用生物科学科、食品栄養学科、食農ビジネス学科)を増設**(枚方キャンパス)
- 11月 ●東グラウンド・部室棟2(寝屋川キャンパス)が竣工

社会の動き

- 2011 ●東日本大震災
●東京電力福島第一原発事故
●なでしこJAPANワールドカップ優勝
- 2012 ●東京スカイツリー開業
- 2014 ●御嶽山噴火
- 2015 ●「18歳選挙権」改正公職選挙法が成立
- 2016 ●北海道新幹線が開業
●熊本地震
●オバマ米大統領が広島を訪問
- 2017 ●陸上100メートルで桐生祥秀が日本人初の9秒台
- 2018 ●米朝首脳がシンガポールで史上初の会談
●大阪府北部の地震、北海道胆振東部地震
●西日本豪雨、広島・岡山で記録的大雨と被害
- 2019 ●「令和」へ改元
●ラグビーワールドカップ日本大会開催
- 2020 ●新型コロナウイルス感染症(SARS-CoV-2)が猛威を振り世界中に感染広がる
- 2021 ●第1回大学入学共通テストが実施
●東京オリンピック・パラリンピック開催
- 2022 ●ロシアがウクライナを侵攻
- 2023 ●WBCで14年ぶりに野球日本代表が優勝
●新型コロナウイルス感染症が5類へ移行
- 2025 ●大阪・関西万博開催



▲枚方キャンパス8号館(手前建物)が竣工(2020年)



▲寝屋川キャンパスグラウンドが竣工(2020年)

2021年 (令和3年)

- 2月 ●2号館、体育練習場・部室棟3(寝屋川キャンパス)が竣工

2022年 (令和4年)

- 4月 ●**国際学部(国際学科)を増設**(寝屋川キャンパス)
- 経営学部を1学科(経営学科)に改編
- 10月 ●学校法人常翔学園創立100周年

2023年 (令和5年)

- 1月 ●3号館(寝屋川キャンパス)が竣工
- 4月 ●**現代社会学部(現代社会学科)を増設**(寝屋川キャンパス)
- 11月 ●12代学長に久保康之が就任

2024年 (令和6年)

- 4月 ●大学院農学研究科(農学専攻)博士課程を増設(枚方キャンパス)

2025年 (令和7年)

- 4月 ●開学50周年

寝屋川キャンパス2号館が竣工(2021年)▼



寝屋川キャンパス3号館が竣工(2023年)▼



摂南大学の特別講演会のために 世界で活躍する著名な知識人たちが キャンパスを訪れた。

これまでさまざまなジャンルで活躍する知識人たちを招いて開催した講演会。
その貴重な話の数々は、学生や教職員など多くの聴講者たちの胸を熱くした。

(所属等は当時。敬称略)

1978年12月7日

江崎玲於奈(ノーベル物理学賞受賞者)

ノーベル物理学賞を受賞した江崎玲於奈氏を講師に迎え、「科学と技術」をテーマに特別講演会を開催。講演は約1時間半にわたり、主に日米両国の科学研究、技術開発の特徴についてわかりやすく解説。多くの学生や教職員たちに深い感銘を与えた。

1980年6月19日

釜本邦茂(五輪サッカー日本代表)

東京、メキシコオリンピックサッカー日本代表でヤンマーディーゼル株式会社サッカー部監督の釜本邦茂氏を講師に招き、特別講演会を開催。サッカーでの自身の経験やエピソードを交えながら、「根性とは何か」について約1時間にわたって講演した。

1981年6月4日

今西錦司(京都大学名誉教授)

「反省と希望」のテーマで行われた特別講演会。「反省とは20世紀を振り返っての反省であり、希望とは21世紀に生きる諸君たちの希望である」と語る今西錦司博士。会場には早くから学生、教職員が多数詰めかけ、今西博士の講演に聴き入っていた。

1983年10月10日

福井謙一(ノーベル化学賞受賞者)

1981年にアジアで初のノーベル化学賞を受賞した京都工芸繊維大学学長の福井謙一博士を迎えて特別講演会を開催。講演は「科学と自然」がテーマ。当日は、会場となった大教室が700人の聴講者でぎっしりと埋まるほど大盛況だった。

1984年5月25日

南部忠平(五輪三段跳び金メダリスト)

1932年開催のロサンゼルスオリンピックの三段跳び金メダリストで、鳥取女子短大学長の南部忠平氏を講師に迎えた特別講演会。南部氏は若き日の競技生活時代を中心に回顧し、貴重な体験談、苦労話などを講演し、その人生観の一端を披露した。

1984年11月16日

堀江謙一(冒険家)

冒険ヨット史上に金字塔を打ち立てた堀江謙一氏が講演。小型ヨット「マーメイド3世」で西回り単独無寄港世界一周早回り新記録を樹立した模様を語った。



1987年12月9日

桂枝雀(落語家)

落語家の桂枝雀氏を講師に迎えた特別講演会。「私の英語落語—緊張と緩和」と題して、ホノルル、ロサンゼルス、バンクーバーの3都市で英語落語を5講演行ってきた話を中心に進められた。講演の中では英語落語も披露。日本語での説明も加えるなど、英会話教室さながらの講演会となった。

1993年4月23日

ミハイル・ゴルバチョフ(旧ソ連元大統領)

旧ソ連元大統領のミハイル・ゴルバチョフ氏を迎え、学園創立60周年記念館(当時)で特別講演を開催。本学をはじめ、大阪工大の学生などを前にゴルバチョフ氏は環境保全の必要性を訴えた。ロシア情勢にも触れるなど約1時間にわたって講演を行い、満員の聴衆に多大な感銘を与えた。

1993年12月13日

浜村淳(タレント)

映画解説やDJなどで人気のタレント・浜村淳氏を講師に招き、「人・街・夢」をテーマに特別講演会を開催した。浜村氏はチャップリンの代表作などを、お馴染みの名調子で解説するなど、人間の心を映画を通して熱弁した。

1995年12月13日

小松左京(作家)

日本を代表するSF作家で、代表作「日本沈没」などで広く知られる小松左京氏を講師に招き、特別講演会を開催。「SFの作法」と題された講演で、恐竜の絶滅、人類の祖先、タイムマシン、透明人間など、SFのエッセンスの数々を紹介。「SF界の先駆者」と感じさせる話題で聴講者をうならせた。

2001年10月23日

中邨秀雄(吉本興業会長)

吉本興業代表取締役会長の中邨秀雄氏を迎え、「自分が楽しむ。だから成功する」をテーマに特別講演会を開催。45年以上に及び吉本興業での経験の中で、中邨氏が育ててきた明石家さんま氏など所属タレントのエピソードを交えながら、ユーモアたっぷりに語った。

2002年10月11日

アルバート・ゴア(米国元副大統領)

学園創立80周年記念行事の一環でアルバート・ゴア米国元副大統領を招き、記念講演会を開催した。本学をはじめ、大阪工大の学生などを前に「21世紀の科学技術と地球社会の発展」をテーマに、国家や世代、歴史を超えて問題解決に必要なものの本質について語った。

2005年9月11日

元木由記雄(ラグビー選手/神戸製鋼スティーラーズ)

学園創立30周年記念事業の一環として、人工芝グラウンド完成記念イベントを開催。ラグビー日本代表で神戸製鋼ラグビー部所属の元木由記雄氏(大阪工大高1990年卒)が、「ラグビーが私に教えてくれたもの」と題して講演した。

2005年10月8日

養老孟司(作家・東京大学名誉教授)

学園創立30周年記念シンポジウム「少子高齢化時代をどう生きるか」を読売新聞大阪本社との共催で開催。養老孟司氏が「なぜ日本は『少子高齢化』したか」と題して基調講演を行った。



2009年10月14日

下村脩(ノーベル化学賞受賞者)

「緑色蛍光たんぱく質(GFP)の発見と生命科学への貢献」により2008年にノーベル化学賞を受賞した下村脩博士を講師に迎え、理工学部・経済学部開設記念シンポジウムを開催。下村博士は「オワンクラグ蛍光たんぱく質の魅力」をテーマに講演した。

2010年9月5日

森永卓郎(経済アナリスト)

テレビ番組などで活躍している経済アナリストの森永卓郎氏をゲストに迎え、経済学部の開設記念シンポジウムを開催した。森永氏は「経済効果の変化～日本経済の長期展望」のテーマで基調講演を行った。

2011年5月28日

サスキア・サッセン(コロンビア大学教授)
ハンス・ウルリヒ・デムート(マルティンルーター大学教授)
ハッシュェム・アクバリ(コンコルディア大学教授)

経済学部や理工学部の教育・研究施設を中心に配し、本学の新たなランドマークとなった新1号館の完成を記念して国際シンポジウムを開催。3分野で国際的に著名な専門家を招き、地球と人類が直面している困難な諸問題を参加者とともに考えることを目的に行い、他大学や企業の研究者、一般の方などが出席した。

2011年10月14日

海堂尊(作家・医師)

看護学部開設記念シンポジウム(テーマ「暮らしの中の医療」)を医師にして作家「チームバチスタの栄光」の著者として知られる海堂尊氏を招いて開催。海堂氏は、「カラダを知ろう、医療を知ろう」と題して基調講演を行った。

2014年11月22日

城戸真亜子(タレント・洋画家)

大学創立40周年を記念し開催した看護学部シンポジウム「認知症患者とその家族を支える看護を考える」に、タレント・洋画家として活躍する城戸真亜子氏をゲストに迎えた。自身の認知症家族介護の経験をもとにしたテーマで講演を行った。

2015年12月15日

栗城史多(登山家)

登山家の栗城史多氏を迎え、「NO LIMIT ～限界という壁を越えて～」と題した特別講演会を開催。エベレスト挑戦で見舞われた9本の指を失う事故やそこからの復帰などさまざまな体験を紹介し、夢を持ちチャレンジを続けることの大切さについて語った。

2017年1月11日

さかなクン(東京海洋大学名誉博士)

テレビ番組などでおなじみのさかなクンを講師に迎え、「いのちを支える自然の力!～海と環境の話～」をテーマに特別講演会を開催。豊富な魚の話題をユーモアあふれるパフォーマンスとともに披露し、海の汚染に関する問題も提起した。

2017年10月7日

吉田沙保里(レスリング・五輪金メダリスト)

アテネ、北京、ロンドンオリンピック3大会連続で金メダルを獲得し、世界大会16連覇を達成したレスリングの吉田沙保里選手を迎え、「夢を追いかけて～見なきゃ掴めない夢がある～」と題した講演会を開催。満員の聴衆の心を熱くした。

2018年10月7日

厚切りジェイソン(IT企業役員・お笑い芸人)

IT企業役員であり、お笑い芸人としても活躍する厚切りジェイソン氏を迎え「WHY JAPANESE PEOPLE! なんでもやりたいことをやらないの? ～掴み取るためには～(48のWHYに基づいて)」と題した講演を行った。

2019年10月19日

弘兼憲史(漫画家)

農学部開設記念シンポジウムに「島耕作」シリーズ作者の弘兼憲史氏を招いて「食と農の未来を考える～次世代農業の視点から～」を開催。日本の食料自給率の低さや農業の問題点、オランダが実践・研究している農業経営の必要性やスマート農業をはじめとした効率的な生産方式などについて自身の漫画を用いて紹介。「日本の大学生に農業を学んでほしい」と農業の面白さや重要性を語った。

2022年11月19日

坪田信貴(作家・起業家)

現代社会学部開設記念シンポジウムに「ビリギャル」(通称)の作者である坪田信貴氏を招いて「学びの動機づけと人間力偏差値の向上～予測困難な時代を生き抜く人間像と高等教育の在り方～」と題した講演を行った。

2023年4月8日

野口みずき(陸上競技・五輪金メダリスト)

アテネ五輪で日本人選手2人目の女子マラソン金メダリストに輝いた野口みずき氏を迎え「金メダリストの夢のかねえ方～夢を実現するためのThinking Ability～」と題した講演を行った。

2023年4月22日

朴一(大阪市立大学名誉教授)

国際学部が開設1周年を迎えたことと、寝屋川キャンパスに3号館が竣工したことを記念して、東アジア地域研究を専門とする朴一大阪市立大学名誉教授を迎え、「激動する世界情勢と日韓関係の行方」と題した講演を行った。

人類の健康、医療・福祉・食に貢献する 「薬学」「看護」「農学」で 社会の発展に貢献できる人材を育成する。

薬学部開設当初、「国家試験全員合格」の目標の下に全教員が集結。

これからの医療に貢献できる薬剤師の育成を目指して1983年に開設した薬学部。開設時には、薬剤師の国家試験において「全員合格」という大きな目標が掲げられた。本学はこの目標を達成すべく、4年次生全員を対象に学業の総仕上げとなる「総合薬学演習」制度を導入した。

「総合薬学演習」では、講師以上の全教員が専門分野を活かした授業を担当。全教員が強い熱意をもって学習支援を行い、国家試験合格に向けて学生たちを後押しした。また、全教員が参加することで少人数指導が可能となり、学生の状態を見ながら細やかな教育を行うことができた。さらに4年次の卒業研究においても、研究室に所属している若い教員たちが国家試験対策を研究室単位で行うなど、まさに「全員体制」で国家試験に取り組んでいた。



教員の熱心な指導と学生の努力が結実し、卒業生全員合格という快挙を達成。

4年次の12月からは国家試験に向けて、約1カ月に渡る「合宿勉強」を大宮キャンパスにある研修棟で実施。ほとんどの学生が参加したこの合宿では、学生たちは毎日夕方まで通常の授業を受け、深夜まで自習室で勉強した。教員は交代で研修棟に宿泊して学生の体調管理を行うなど、勉強に集中できる環境づくりに努めた。共に濃密な時間を過ごした学生たちは、まさに「同じ釜の飯を食う仲間」として、同志として、一丸となって合格という大きな目標に立ち向かう意欲を高めた。

1～3年次では、午前中は授業、午後からは実習の時間割が毎日続く中、レポートの作成に追われる学生も多かった。そのため、午後7時に閉館していた学部図書館は、「とにかく遅くまで開館してほしい」という強い要望に応えるべく、自習室は午後10時まで利用できるようになった。

また、当時は実習が思うようにいかない場合には、「成功するまでとことんやりたい」という学生が多かった。そのため、実験を一時中断して教員と一緒に夕食をとり、再び実習を続けるということも頻繁にあったという。

このような教員と学生の努力が見事に実を結び、第1期卒業生130人全員が薬剤師の国家試験に合格するという快挙を成し遂げるのである。

開設以降13回、薬剤師国家試験合格率全国1位を達成。

他の大学では見られない本学独自の取り組みを続けた結果、第1期卒業生以来、13回、薬剤師国家試験合格率全国1位という大きな成果をもたらした。先輩たちの偉業に現役学生たちはプレッシャーを感じることもあったが、これまでに醸成された「学生と教員がともに汗をかくて頑張る」という文化の中で努力し続けることで、そのプレッシャーに打ち勝ってきた。

国家試験合格率全国1位の達成は以前にも増して難しくなっている。しかし、これまでに培ってきた経験やノウハウを活かし、当時と変わらず学生・教員が目標に向かって努力することで、好結果を成し遂げている。

薬学部との連携でチーム医療に貢献できる看護職者を養成。
看護学部では、「薬に強い看護職者」を育成するため薬学部生と合同演習を実施。
摂南IPE(専門職連携教育)の歴史が始まった。

開設41年目の薬学部と13年目を迎えた看護学部の学生は、クラブ活動や地域貢献活動を共にしながら大学生活を送る。こうした環境は、薬学部の歴史・伝統意識と看護学部の新たな歩みへの思いが融合して自然と学生は影響し合う。安全で質の高い医療サービスを提供するため、看護職は薬に強いことが求められる。薬学部生との合同演習では、模擬電子カルテから読み取った患者情報をもとに、看護計画・薬物治療計画を立案したり、クリニカルパス(治療計画スケジュール)を作成するなど、徹底してチーム医療を意識した教育を行いお互いに切磋琢磨する。

大学院看護学研究科への進学により高度専門職業人への道が目指せる。
学部では助産師および保健師課程(ともに選択制)を設置。将来の活躍の場は多彩である。

大学院進学を希望する学生や医療現場で働く看護職者に対して、2016年に大学院看護学研究科を設置し、地域社会で生活する人々を支援する看護実践者および研究能力を基盤とした看護教育者を育成することを目的としている。

学部では2018年に看護学部看護師・助産師に続いて保健師課程を開設し、医療施設に限らず官公庁や企業など、幅広い分野を視野に入れたキャリアデザインを描くことができる。

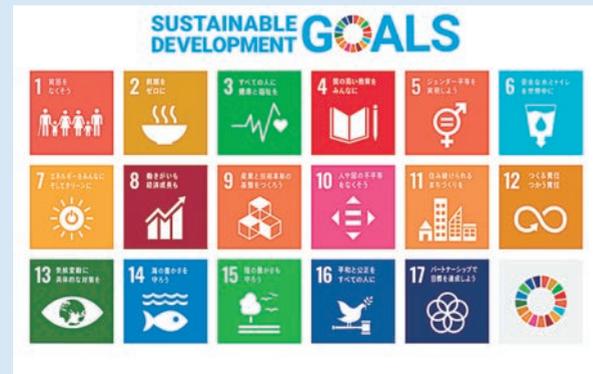
【看護師国家試験 合格率(過去5年間)】



開設当時、大阪府内で唯一の農学部として、食と農の未来を考える4学科構成でスタート。
企業、自治体、大学間の戦略的連携でイノベーションの創造と人材育成をはかる。

建学の精神に則り、農学に関する社会の諸課題を解決する人間性豊かな専門職業人を養成することを目的とし、2020年4月に開設。農業生産学科、応用生物科学学科、食品栄養学科、食農ビジネス学科の4つの学科を擁し、食の生産、それを支える食品の栄養と健康、さらには、社会経済活動など、私たちの毎日のくらしやそれを支える社会、また地球環境までを取り扱う。本学部の全ての研究が持続可能な開発目標(SDGs)に貢献している。食料の安定供給、気候変動対策、生物多様性の保全、健康寿命の促進、循環型社会の創出など、SDGsの課題は、農学と密接に関連している。こうした分野における社会や時代のニーズに応えるため、企業、自治体、大学間の戦略的な連携を深めて、イノベーションの創造と人材育成をはかる。

企業との共同研究では、新たな機能性食品や加工食品の開発、ゲノム編集などの先端技術を活用したバイオの研究も実施。同一法人の設置大学である大阪工業大学とも連携し、人工知能(AI)や情報通信技術(ICT)を使った先端農業の研究にも力を入れている。本学の薬学部、看護学部と合同授業や共同研究を実施し、枚方キャンパスはライフサイエンスキャンパスとして展開している。



持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。

産官学連携プロジェクトを通じて地域に貢献する大学の役割。さまざまな挑戦を通して自らの成長につなげる。

地域の各自治体や各種機関・団体との連携活動



(写真左上から順に)

- 葛城市で活躍中の吹奏楽部
- 交野市キッズ防災教育を展開するボラスタ
- 寝屋川市駅前での東日本大震災募金活動
- 寝屋川市の「エコ仮面」を講師に招いた「北河内学」

本学は「地域に開かれた大学」を目指し、地域との連携を求める改正教育基本法施行に先行し2006年に「摂南大学地域連携センター（現、研究支援・社会連携センター）」を開設。自治体で本学キャンパスに近接する大阪府寝屋川市・交野市・枚方市・門真市、寝屋川市の友好都市である和歌山県すさみ町、和歌山県由良町のほか、北大阪商工会議所、茨木商工会議所、奈良県の葛城市経済倶楽部、大阪府枚方土木事務所等と包括連携協定を締結。総合大学の特性を活かし、地域社会の方々とともに「共創の活動」を展開している。

交野市の総合計画策定作業支援業務、寝屋川市の新しいロゴマークや香里園情報誌の作成、すさみ町の活性化プロジェクトをはじめ各地域での貢献活動に学生が教職員とともに参画したり、独自の活動を展開するなど、本学の教職員と学生の活躍に対して地域の方々から高い評価を得ている。同センターでは、学生が本学や地域に愛着を持ち地域貢献活動への動機付けとなることを目的に2010年から「北河内学」を教養特別講義として開講し、100人を超える学生が聴講。地域の各分野で活躍する方々のリレー形式の講義に学生から「授業はどれも魅力的で受講して良かった」との多くの声が寄せられている。

2014年から、北大阪商工会議所との協定により、管内の枚方市、寝屋川市、交野市が抱える各課題の解決を促進し、本学の教育・研究機能を産官学連携等に生かし、地域発展、地域等社会貢献に寄与する。学生には、実践教育のフィールドとなる。

2018年度から、枚方市内4大学、枚方市、北大阪商工会議所、資生堂ジャパン株式会社、株式会社morondoとの協定により、「枚方産学公連携プラットフォーム」を形成。枚方市における高等教育および地域活性化を目的に、活動しています。

病院・薬局との教育研究連携

薬学部では「新しいスキルとこころ」を身につけた“未来型薬剤師”の養成を目指し、地域の病院、保険薬局、ドラッグストアと本学は「教育・研究の連携と協力に関する協定」を締結している。主な事業内容は、大学と連携先の双方向の人的交流と、医師、薬剤師、看護師が学生の教育に参画するチーム教育の体制構築の2点であり、地域医療の向上に貢献する新たな取り組みとして、各方面から注目を集めている。



学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～

大阪府寝屋川市、枚方市、茨木市、門真市、摂津市、河南町など大学近隣の複数の自治体と連携し、地元産業を活性化させる商品企画やイルミネーション、子ども向けのスポーツ教室や男女共同参画をテーマとしたイベントの開催などを通して幅広く活動する。学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的としている。2014年度には寝屋川市のベンチャービジネスコンテストで初代グランプリに輝いた学生グループ考案「カラーに乗せてはいけない福神漬け」が、その後のさまざまな活動（試作品作りや試食会、食品会社との販路検討、パッケージラベルの制作等）を経て商品化。大学祭や農業まつりなどで販売している。



大学・行政・農家連携の6次産業化プロジェクト

2021年3月、農学部は枚方市と農業振興・食などについて地域課題の解決および地域の活性化を目的とし連携協定を締結。第1弾として、地域振興・農業振興への貢献および6次産業化につながるプロジェクトチームを発足した。すももはかつての枚方市特産品であり、その再生への取り組みを含めたプロジェクト。行政・農家と連携し、収穫から試作、商品化まで行った。香料や着色料は一切使用せず、すもも本来の味わいを楽しめるサイダーが完成。学内のコンビニエンスストアで販売、枚方市のふるさと納税返礼品にも採用された。今後も行政、農家と連携し、実践的な学びとともに、地域課題解決に向けて取り組む。



完成したすももちゃんサイダー

寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト

寝屋川市内の小中学生を主な対象とした環境学習支援や、淀川水系の各地でさまざまな団体と連携した水辺整備活動、環境保全活動に取り組む。継続的に活動することで、琵琶湖や淀川流域の市民活動に大学として大きく貢献することを目指す。

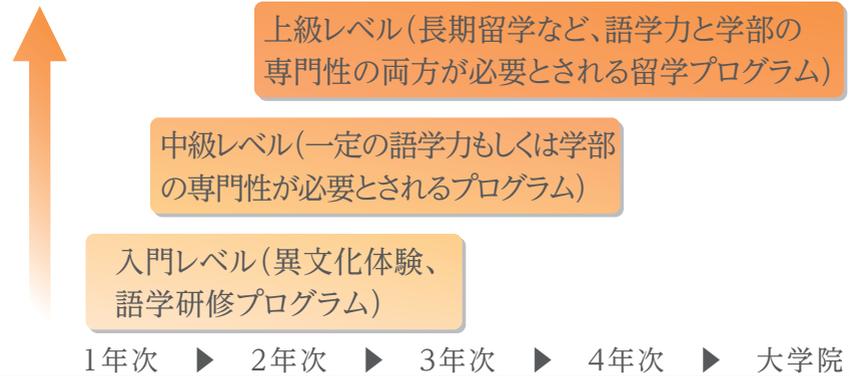


充実したプログラムで国際交流を支援。 グローバルな視野を身につける。

グローバル教育センターでは、全学部生を対象に海外での異文化体験や語学研修を中心とする「入門レベル」、特定のテーマを海外で学ぶ「中級レベル」、専門性を深める長期留学(半年~1年間)を行う「上級レベル」の海外派遣プログラムを実施している。オンラインで実施するプログラムもあり、日本にいながら、世界各国の提携大学の学生と共に学ぶことが可能である。

また、国際学部の海外留学制度をはじめ、各学部でも独自の留学プログラムを実施している。

本学で学べる留学スタイル



短期留学

派遣先: サイパン、フィリピン、タイ、韓国、マレーシア、カナダ、台湾ほか

長期留学

派遣先: 韓国(大田大学校、明知大学校、崇実大学校)、台湾(南台科技大学、大葉大学、義守大学)、マレーシア(マレーシア科学大学)、アメリカ(エンポリア州立大学)ほか

在学生、教職員が歓迎の思いを込めて新入生を迎える 新入生歓迎プロジェクト。

2017年から始まった新入生歓迎プロジェクトは、在学生有志と若手職員が協働し、入学宣誓式に新入生への祝福と歓迎の思いを込めたステージパフォーマンスや多彩な企画を新入生歓迎のイベントとして展開する取り組みである。準備期間は約10カ月にも及び、教職員も巻き込む本学一大イベントの一つとなっている。このプロジェクトをきっかけに、仲間づくりや在学生とのコミュニケーションを通して交流の輪を広げ、学習意欲の向上につなげることを目的としている。イベントをつくり上げる過程で、学生たちは企画立案力、プレゼンテーション能力といった社会人基礎力に直結する力だけでなく、チームワークの重要性を体感し、実行する力を身につけるなど、大きなやりがいの中で成長を遂げていく。



大阪城ホール(大阪市中央区)を会場に盛大に繰り広げる新入生歓迎イベントのフィナーレ



新入生を歓迎するステージダンス

摂南大学の実績や学びの特徴をわかりやすく数字で紹介

文理多彩な総合大学

2023年4月 摂南大学

学生総数【2023年4月1日現在】

9学部 17学科 10,055人

※文系・理系・医療系の多彩な学問を学べる総合大学。2023年4月には、現代社会学部が誕生しさらに成長を続けています。

きめ細かなサポートを可能にする大学規模

専任教員一人当たりの学生数

関西の私立トップクラス

26.4人

※2022年度実績

コンパクトな規模がもたらす強みとして、学生と教員の距離が近く、学生一人ひとりに目が行き届く、きめ細かな指導を実施。



実践を通して深まる学び

摂南大学PBLプロジェクト

講義で学んだ理論を演習・実習などで試し、実務経験をもとに、また理論を学び直す「アクティブ・ラーニング」。摂南大学では、このように学生が主体となって現場でのさまざまな経験を通して理解を深めながら成長していく学修スタイル（課題解決型学習、PBL）を展開しています。

2022年度までに実施したプロジェクト数

137プロジェクト



※2011年度～2022年度に実施した「摂南大学PBLプロジェクト」のプロジェクト数合計

「摂南大学PBLプロジェクト」は、本学の教育理念である「自ら課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人の育成」を実践するためのプログラム。このプログラムの特長は、一定期間内にプロジェクトの目標を達成するため、学生が自ら課題を発見し、プロジェクトのメンバーと協働して、課題の解決に取り組む創造的・社会的な学びである点にあります。

国家試験・公務員へのサポートも充実

10人に1人以上が公務員に!

法学部の官公庁(公務員)への就職割合

法学部・法律学科

10.7%

薬学部6年制移行後の卒業生

薬剤師国家試験合格率

薬学部・薬学科

95.7% $\frac{2,451人}{2,347人}$

過去5年間の平均合格実績

看護師国家試験合格率

看護学部・看護学科

99.6%

手厚いキャリア支援による高い就職実績

キャリアサポート

1年からキャリア形成科目を配当し、段階的に卒業後の進路への関心を高めます。就職部と教職員が連携し、学生との進路面談や履歴書の添削、就職支援イベントなどを実施。学生一人ひとりに向かいながら進路実現のサポートを行うことで、毎年高い就職満足度を実現しています。

年間個別面談のべ回数

17,909回

※2023年3月卒業生/3年次(薬学部は5年次)の4月から4年次(薬学部は6年次)

学生一人当たりの面談回数

約12回



就職率【2023年3月31日現在】

96.5%

※就職率は、就職希望者を母数に算出

就職満足度【2023年3月31日現在】

98.4%

※本学2022年度「進路決定届」に基づく「満足」、「ほぼ満足」の集計値

進路把握率【2023年3月31日現在】

97.4%

※進路不明の者を除いた卒業生数を母数に算出

大阪府内の私立総合大学実就職率

関西圏、国内トップクラスの大学が立地する大阪府内ともに1位に輝きました。

2021年度の実就職率=91.1%
実就職率=就職者数÷(卒業生数-進学者数)

【出典】2022年7月22日現在
「2022年実就職率ランキング
(卒業生数1,000人以上)」
(大学通信調べ)より近隣の私立総合大学で見た統計値。

※女子大は除く



大阪府

1位

関西圏

1位

約半数以上が大企業に就職

従業員501人以上の企業への就職割合

59.6%

文系学部 53.2% | 理工学部 57.8% | 医療系学部 79.4%

大企業への就職割合(資本金1億円以上)

資本金は会社選びの基準の一つ。税法上の分類としては資本金1億円以下を中小企業、資本金1億円を超える企業を大企業といい、約半数が大企業への就職を叶えています。

52.3%

学生一人当たりの求人社数

9.5社



摂南大学とともに 未来を築いていくみなさんへ

これは常翔学園の建学の精神や摂南大学の教育の理念、
これまでの歴史、社会的な役割などについて
まとめた母校を知るための冊子です。

この冊子を通じて摂南大学の素晴らしさを確認し、今一度
「なぜここで学ぶのか」

「どのようなマインドを持って学ぶべきか」

「どのような生き方をしたいのか」を考えてみてください。

そしてみなさんが大学の「いま」を、
自分自身の「未来」をつくり出すための、
可能性に満ちた時間を

ここ、摂南大学で過ごしていることに気付いてほしいと
願っています。

母校の歴史を学ぶことで

社会に飛び立つための勇気を、

そして自信を手にするきっかけになることでしょう。

みなさんの未来のために、

教職員一同、みなさんの可能性を信じて

精一杯、その支援をしていく気持ちでいます。

だから臆することなく飛び込んできてほしいのです。

摂南大学はみなさんの望む

未来への出発点でありたいと願っています。

教職員一同より



摂南大学ホームページ

<https://www.setsunan.ac.jp>